令和８年度　全国学力・学習状況調査

# 貝塚市の結果分析

貝塚市教育委員会

（１）調査の目的
義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）対象学年
○小学校及び義務教育学校前期課程6年
○中学校3年、及び義務教育学校後期課程9年

（３）調査内容
①教科に関する調査
・小学校等 【国語、算数】
・中学校等 【国語、数学、英語】
※理科（小・中学校は3年に一度程度の実施のため実施せず）
②質問調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

（４）今年度調査の特徴
※教科に関する調査は、国語、算数・数学、英語を実施
※中学校英語は1人1台端末を活用したオンライン（IRT方式）で実施。IRTとは生徒の正答・誤答が問題の特性によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論のことです。問題は全日程共通と実施日により異なる公開問題、生徒ごとに異なる非公開問題があります。

## 教科に関する調査結果と成果

### 平均正答率（%）

**小学校**

| | 貝塚市 | 大阪府 | 全国 |
|---|---|---|---|
| 国語 | ５９ | ５９ | ６０.９ |
| 算数 | ５６ | ５６ | ５６.４ |

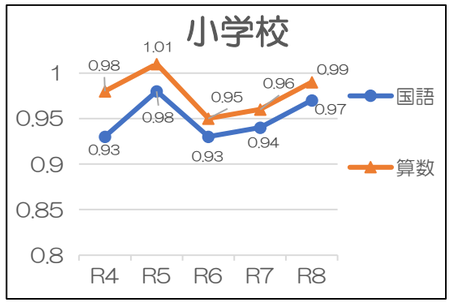
**中学校**

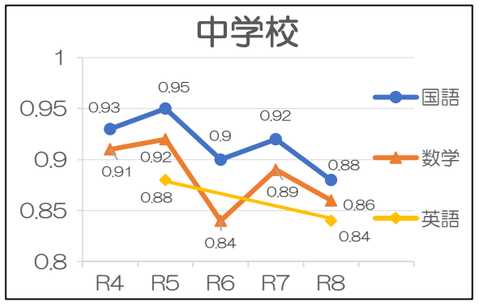
| | 貝塚市 | 大阪府 | 全国 |
|---|---|---|---|
| 国語 | ５６ | ６１ | ６３.９ |
| 数学 | ４９ | ５５ | ５７.０ |
| 英語 | 3.1 | 3.7 | 3.7 |

※表中の「貝塚市」、「大阪府」、「全国」については、「貝塚市内公立学校」、「大阪府内公立学校」、「全国の公立学校」の平均正答率（%）を表しています。

### 対全国比の経年比較

貝塚市の平均正答率を全国の平均正答率でわり、全国の正答率を1（基準）としたときの貝塚市の数値を経年で比較しました。




### 成果

**1．小学校、国語・算数の正答率の対全国比が向上**

小学校では全国平均を1としたとき、国語0.94ポイントから0.97ポイントに、算数0.96ポイントから0.99ポイントに向上しました。

**2．自分の考えをまとめること**

中学校では「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の肯定的回答の割合が 72.3% と、大阪府 69.5%、全国 70.8%を上回りました。対話を通して自分の考えを表現・発信する授業が活性化し、考えを整理し、まとめる機会が増えた成果だと考えます。

**3．発表に向けた工夫**

小学校では「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表しましたか」の肯定的回答の割合が 71.8% と、大阪府 66.8%、全国 66.4%を上回りました。資料や文章を根拠として、自分の考えを相手にわかりやすく伝えるように意識した授業が増えた成果だと考えます。

## 各教科の状況

### ○小学校国語

令和７年度調査では、「読むこと」の正答率が全国平均を５.２ポイント下回り、文章や資料を整理して内容を正確に把握する力や論理的表現力に課題が見られました。令和８年度調査では全国平均が－２.６ポイントまで縮まり、基礎的な読み取りに改善の傾向が見られました。授業の中で、本文をもとに根拠を持って論理的に説明する学習に取り組んだことが、改善につながったと考えられます。
一方、「書くこと」の正答率は３９%と低く、大きな課題となっています。集めた情報から条件に沿って文章を再構成するなど、自分の言葉で表現する力が今後の課題です。

### ○小学校算数

令和７年度調査では、「思考・判断・表現」は全国平均を 3.4 ポイント下回り、文章題への対応や筋道を立てて説明する記述力に課題が見られました。令和８年度調査では全国平均を２.３ポイント上回り、改善しています。授業の中で、友だちと協力し課題解決に取り組むとともに、筋道を立てて説明する言語活動を繰り返し行ったことが、学習成果として表れていると考えられます。一方で、領域別で見ると「変化と関係」に弱さが見られます。特に割合の問題の正答率が低く、割合や倍の概念の定着不足が伺えます。割合や倍の意味をテープ図や関係図などと結び付けて理解する力に課題があります。

### ○中学校国語

令和７年度調査では、「言葉の特徴や使い方」は全国平均－６.４ポイントで語彙や文法理解に課題があり、また「話すこと・聞くこと」－３.８ポイント、「書くこと」－４.９ポイントと全国を下回り、表現力にも課題が見られました。令和８年度調査では「言葉の特徴や使い方」は全国平均－６.９ポイント、「話すこと・聞くこと」－１０.５ポイント、「書くこと」－８.７ポイントと全国を大きく下回り、さらに差が広がっています。特に表現力の課題は一段と深刻化しています。条件に沿って推敲する指導や日常的な話し合い活動の確保が相対的に不足したことが主な拡大要因として考えられます。

### ○中学校数学

令和７年度調査では、「思考・判断・表現」は全国平均－５.６ポイントと全国を下回り、記述式問題の正答率が低く、数学的な根拠を示して説明する力に課題がありました。令和８年度では、「思考・判断・表現」は全国平均－７.３ポイントと全国平均をさらに下回り、令和７年度の課題をまだ克服できていません。筋道を立てて説明する数学的な活動や、自分の考えの根拠を言葉や式で再構成する活動が不十分であったことが主な要因として考えられます。

### ○中学校英語

話す聞くの問題で、相手からの質問を聞き取った上で、すぐに英語で返す問題では、無回答が約27%でした。その場に合った返事を考え、それを表現（表記）することに難しさを感じている様子がわかりました。英語でのコミュニケーション力と、諦めずに答えようとする姿勢に課題があります。

**IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド　縦軸：割合）**

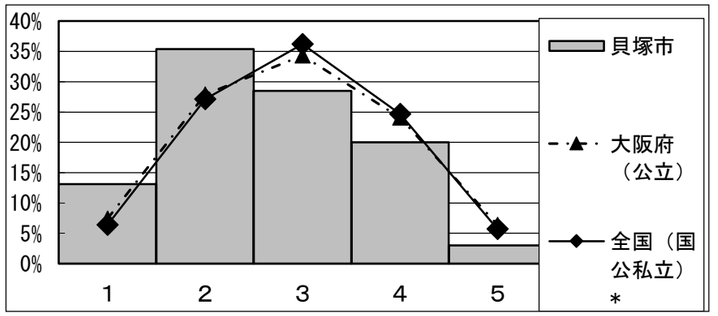
| | | 貝塚市 | 大阪府 | 全国 |
|---|---|---|---|---|
| 中学校 英語 | 平均正答数 | 3.6 | 4.4 | 4.5 |
| | 平均IRTスコア | 460 | 497 | 499 |

| 小学校国語 | 学習指導要領の内容 | | 平均正答率（%） 貝塚市 | 大阪府 | 全国 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 知識及び技能 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 68.0 | 64.4 | 66.8 |
| | | 情報の扱い方に関する事項 | 47.1 | 51.4 | 52.3 |
| | 思考力、判断力、表現力等 | 話すこと・聞くこと | 63.2 | 63.9 | 65.8 |
| | | 書くこと | 39.0 | 43.8 | 45.7 |
| | | 読むこと | 63.3 | 65.3 | 65.9 |

| 小学校算数 | 学習指導要領の内容及び評価の観点 | | 平均正答率（%） 貝塚市 | 大阪府 | 全国 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 領域 | 数と計算 | 61.0 | 61.1 | 61.1 |
| | | 図形 | 53.7 | 54.2 | 55.3 |
| | | 測定 | 75.1 | 77.6 | 78.1 |
| | | 変化と関係 | 38.4 | 40.6 | 41.1 |
| | | データの活用 | 50.0 | 48.0 | 48.6 |
| | 評価の観点 | 知識・技能 | 59.0 | 59.8 | 60.1 |
| | | 思考・判断・表現 | 47.7 | 44.9 | 45.4 |

| 中学校国語 | 学習指導要領の内容 | | 平均正答率（%） 貝塚市 | 大阪府 | 全国 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 知識及び技能 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 56.1 | 60.4 | 63.0 |
| | | 情報の扱い方に関する事項 | 63.0 | 66.8 | 70.4 |
| | 思考力、判断力、表現力等 | 話すこと・聞くこと | 53.4 | 60.2 | 63.9 |
| | | 書くこと | 58.7 | 64.5 | 67.4 |
| | | 読むこと | 54.1 | 56.8 | 59.7 |

| 中学校数学 | 学習指導要領の内容及び評価の観点 | | 平均正答率（%） 貝塚市 | 大阪府 | 全国 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 領域 | 数と計算 | 60.7 | 65.6 | 67.8 |
| | | 図形 | 42.3 | 48.0 | 48.7 |
| | | 関数 | 45.9 | 52.8 | 54.8 |
| | | データの活用 | 43.4 | 49.7 | 53.5 |
| | 評価の観点 | 知識・技能 | 54.7 | 60.9 | 63.0 |
| | | 思考・判断・表現 | 31.8 | 36.6 | 39.1 |



令和８年度　全国学力・学習状況調査

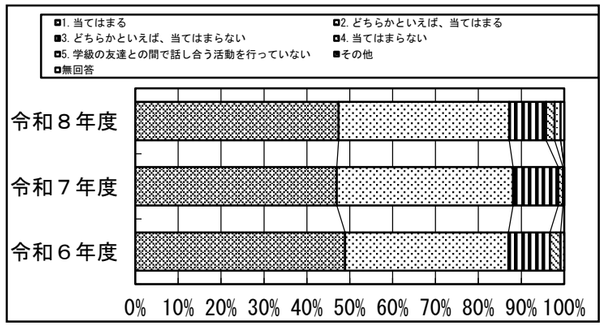
# 貝塚市の結果分析

貝塚市教育委員会

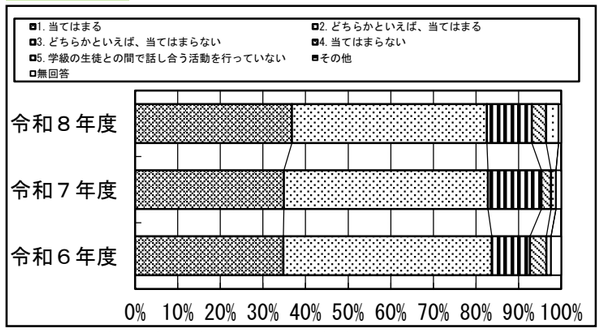
## 児童生徒質問紙調査結果

学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

小学校



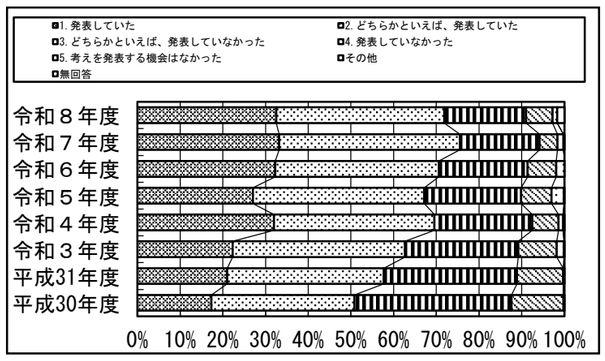

中学校



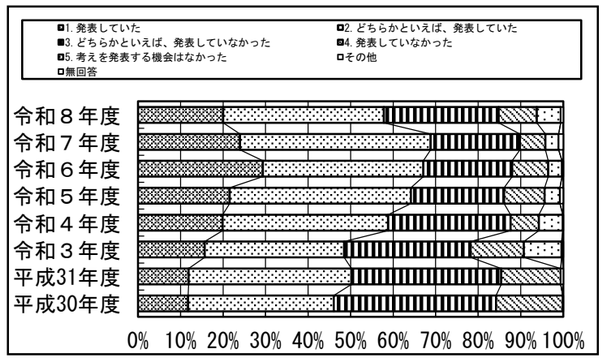

小中ともに、肯定的回答の割合が約８０％を超えていますが、今年度は若干ですが肯定的意見が減少しています。今後は話し合う目的を明確にし、対話による考えの変化を実感できる学習活動の充実を図る必要があります。

小学５年生（中学１、２年生の時）までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しましたか。

小学校



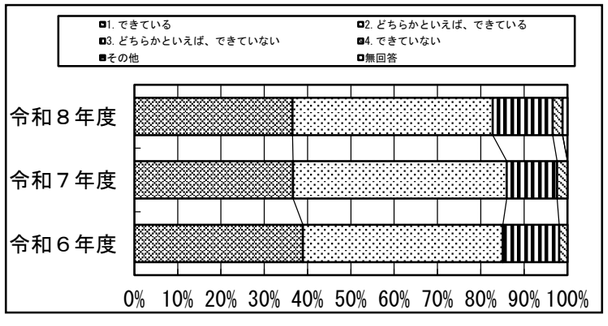

中学校



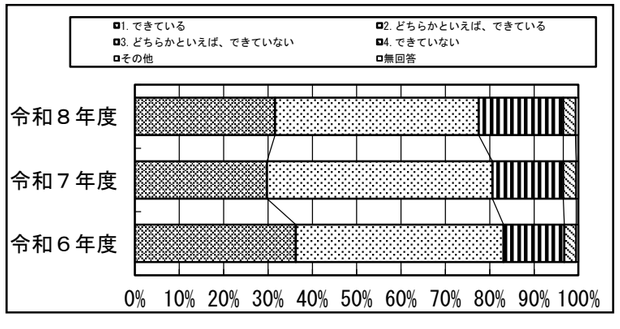

小学校からの取組みにより発信力・表現力の意識は定着しつつあるものの、自分の考えを論理的に組み立てて伝える力の育成が今後の課題です。

分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

小学校



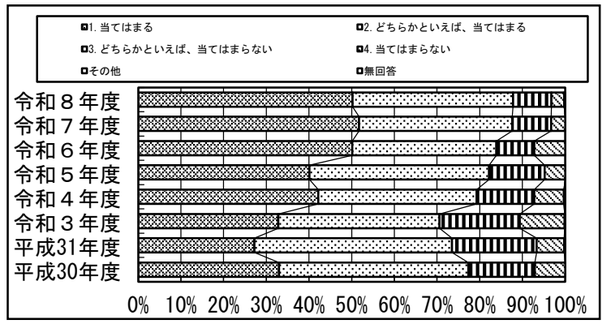

中学校



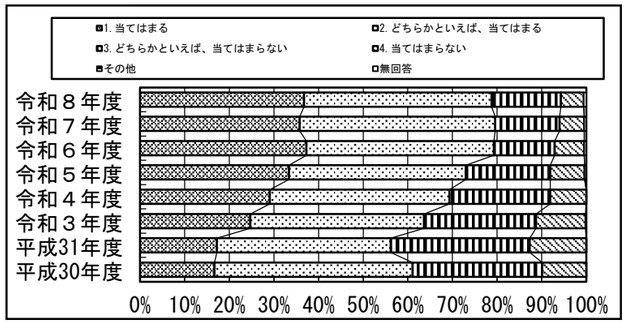

肯定的な回答の割合は高い水準にありますが、昨年度から若干減少しています。自分の学び方を振り返り、そのよさや改善点を実感できる機会をさらに充実させることで、学び方を自ら考え、工夫する力を育てていく必要があります。

自分には、良いところがあると思いますか。

小学校




中学校




貝塚市では、本市で育ったことを誇りに思えるようにと様々な取組みを行っています。その一つとして自分の良いところを認められるよう、学校では肯定的な声かけを心掛けているためか、自分のよさを認められる子が多い結果となっています。今後も非認知能力（学びに向かう力、人間性等）の育成を意識するとともに、一人ひとりの成長を支える発達支持的生徒指導を進めていきます。

## 昨年度の分析をふまえた今後の取組み

全国学力・学習状況調査は、児童生徒の学習状況を把握・分析するための手段の一つであり、本市の子どもたちに育成すべき資質・能力が確実に定着しているかを検証するものです。 令和７年度の調査結果を踏まえ、本市では「表現力」や「データリテラシー」の向上を重点課題とし、多角的な取組みを進めてまいりました。日々の授業においては「意味理解」を深め、子どもたちの「分かった」という実感を大切にした授業づくりを行うとともに、各種テスト結果分析に基づき、一人ひとりの課題に応じた指導の充実に努めてまいりました。 その結果、小学校においては一定の取組みの成果が見られるものの、中学校においては克服すべき課題がなお山積しております。

市としましては、この課題を打開するためには、全教職員が、組織として課題解決のための方針を共有し、今後は教育活動を推進することが不可欠であると考え、「貝塚エージェンシー」を策定いたしました。今後は、この「貝塚エージェンシー」の具現化に向けた取組みをいっそう推進してまいります。児童生徒質問紙調査の結果は、子どもたちの日々の学びや生活の姿を把握するうえで欠かせない重要なデータです。ここでは、市の取組みと関わりの深い項目を中心に、成果と課題を整理しました。今年度の成果として、児童生徒が自身の考えを表現する力、課題に主体的に取り組む姿勢、ならびにICT機器を授業内で日常的に活用する取組みが進展しました。子どもたちが未来を切り拓くためには、実社会で生かせる知識・技能に加え、未知の課題に挑戦し克服する力が不可欠です。貝塚市では、こうした変化の激しい時代に対応するため、課題を自分ごとで捉え、対話を通して新たな価値を創造しながら困難を乗り越えて未来をつくる力「貝塚エージェンシー」の育成を掲げています。この「貝塚エージェンシー」のもと、「学びの主体性」「他者との協調性」「枠にとらわれない創造性」をバランスよく育むとともに、日々の教育活動の中で、人権教育、支援教育、生徒指導といったあらゆる場面において、「①問いをたてる」「②調べる・聴く」「③比べる・決める（整理する）」「④やってみる・伝える」「⑤ふりかえる・つなぐ」という探究のプロセスを大切にしていきます。

○基礎・基本の定着に向けた授業改善の一環として、ICT教材を効果的に活用した「個別最適な学び」を推進します。デジタルドリル等を活用した習熟度に応じた反復学習を取り入れ、児童生徒一人ひとりに確実な基礎・基本を定着させます。ICT教材を効果的に活用し、児童生徒一人ひとりの習熟度に合わせた「個別最適な学び」を推進します。

○答えのない不確実な時代において、自分らしく生き、社会を切り拓く力を身につけるため、教育活動全体で探究的な学びを推進します。教科等で得た理解を実社会で活用できる「生きて働く知識・技能」へと高めるとともに、根拠をもって自身の考えを整理・発表する活動を通して、データリテラシーを含む「思考力・判断力・表現力等」の向上を図ります。自ら課題を見つけ主体的に解決をめざすプロセスの中で、生涯にわたり社会に関わり続ける「学びに向かう力、人間性等」を総合的に育みます。

○人権学習で学んだことを自分ごとで捉え、行動に移す力を育成するとともに、非認知能力の育成にも力を注ぎ、自己肯定感や自己有用感を高めることで、挑戦意欲や粘り強さを育みます。児童生徒一人ひとりが「自ら学び続ける力」を伸ばしていけるよう支援していきます。